

海蔵



令和三年六月二十一日(月)

題字は、海蔵学校時代に本校玄関に掲げられていた額（海蔵小学校百年誌（1975年）に掲載）の文字を基にしています。

本の世界へのいざない「六月の「日誌」から」

先週（十五日）、児童書作家はやみねかおる先生が本校を訪れ、熱心な読者である本校児童数人と話をする機会をいただきました。

先生は、かつて本校に教諭として勤務されていたことがあります。こうした縁から、NHK津放送局様が番組（七月十六日午後七時三十分から放送予定）を企画され、その一部として子どもたちと話す機会が実現することとなりました。

子どもたちは憧れの方を前に緊張気味でしたが次第に打ち解け、先生のお話に引き込まれていました。短い時間ではありましたが、充実した時間を過ごさせていただきました。

校長室でご挨拶をお受けした際に、本校に勤務していただいた四年間のお話も聞かせていただきました。旧校舎をはじめ、昔の海蔵地区の様子などもよく覚えていらつしやり、当時の子どもたちとの楽しい思い出を懐かしく話されていました。

お帰りの際には、今の子どもたちと接する機会を持てたことをとても喜んでいただき、「ものすごく楽しい時間を過ごせました」と言葉を残されて学校を後にされました。

また、子どもたちとの話の中で、小説の書き方に関する質問が出されていたのですが、これに対して、先生から左記の本を郵送にて寄贈いただきました。早速、図書室に配架させていただきます。

この本以外にも先生の書かれた本は多数蔵書しており、図書室にコーナーを設けております。これを機に、たくさんの子どもたちが「はやみねワールド」へ誘われ、本好きの子がますます増えることを期待します。

【寄贈いただいた本】

『めんどくさがりな君のための文章教室』

（飛鳥新社）

読書活動充実の一助として

PTA活動の一環として、マックスバリュー阿倉川店での「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加しています。

毎月十一日のキャンペーンに発行される黄色いレシートを本校のボックスに投入していただくと、合計額の1%がイオンギフトカードとして学校に寄贈されます。

昨年度は、一三一万四、八〇一円分のレシートの投函により一万三、一〇〇円のギフトカードが贈呈され、児童図書購入に充てさせていただきました。子どもたちの読書活動の充実の一助として、本年度もご協力の程、宜しく願います。

いかなる時も過去に目を閉ざさず

四日市空襲の日（六月十八日）にあたり、犠牲となられた方々に対し黙祷を行いました。新型コロナウイルスという目下の敵との戦いが続く毎日ですが、戦争を過去のものとしてはならないと改めて感じております。

私たち教職員一同、当時の先生方の御苦労や校舎の復旧にご尽力された保護者・地域の方々に改めて敬意を表し、思いを受け継いでいきたいと思えます。

令和の子どもたちが、戦時を生ききた人々に思いを馳せ、平和の意味をかみしめてくれることを願っています。ご家庭でもぜひお子様とお話をしてください。

【四日市空襲について】

昭和二十年六月十八日未明、四日市市は米軍機の爆撃を受けて、死傷者・行方不明一七四名、家屋の全半壊一万件以上という大きな被害を受けました。本校においても、五名の児童の命が奪われ、家を失った児童は五百名を上回り、当時新設備を誇った校舎を全焼するという悲運に見舞われました。校地内で焼け残ったのは体育小屋のみという有様で、分教場として設けられた神社等において分散授業が行われ、八月十五日を迎えました。

『四日市市史』『海蔵小学校百年誌』による